

No.2521 改

夏山のトレーニング山行に行こう 南アルプス 仙丈岳

実施日 2011年7月24日(日)～25日(月)
天 候 曇り時々晴れ
C L 涌井良明 S L 若村勝昭
参加者 若村貴世子、若村勝昭、佐藤金治、涌井良明、鈴木政三、山崎富美恵、鈴木恵美子、石附智江、渋谷京子、中村友子、伊藤久雄、石原勝正、宇野輝代 計 13名
費 用 J R 2,900円(高尾起算特急券別)
バス5,500円(甲府⇔広河原⇔北沢峠)
タイム 24日 甲府(11:03～12:00バス)広河原(13:56～14:25バス)北沢峠(14:40～14:45)大平山荘(15:00) 泊
25日 起床(3:00～3:15)北沢峠登山口(3:15)1合目(4:00)2合目上休(4:25～4:35)大滝頭(5:40～6:05朝食)馬ノ背ヒュッテ(7:00～7:10)仙丈小屋(8:15～8:30)仙丈岳(9:05～9:40)小仙丈岳(10:30～10:35)大滝頭(11:18～11:25)北沢峠(12:34～13:05バス)広河原(13:40～13:50タクシー)金山温泉(14:45～16:00タクシー)甲府(16:50)
データ 行動時間 9時間19分
積算距離 9.98km
総上昇量 1,049m

夏山に向けてのトレーニング山行の最終章山行として企画した。

1日で1000mの標高差の登降と3000mの稜線歩きに触れるのが目的である。

また、夏山を意識した装備のザックを背負っての歩行訓練でもある。

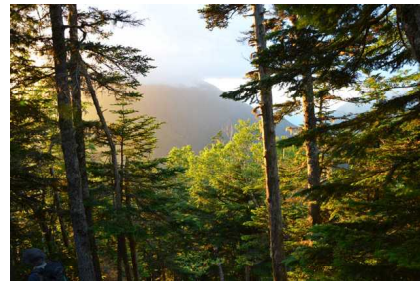
数年振りの広河原には小ぎれいなバスターミナル建屋ができておりまだまだ衰えない

百名山人気を感じた。

北沢峠で降りたバス道をそのまま少し進み、大平山荘への道へ下り着いて山荘着、混雑もなくてゆっくり休めのは良かった、翌朝は3時起床として、早めに就寝。



3時15分にヘッドランプの明かりで出発、峠まで戻り登山道へ、夜明け前の樹林帯をランプで登る、道は良く整備されているので夜道でも不安は少ない、一合目、二合目と木札を確認しながら高度を上げ四合



目手前で背後の木の間越しに朝日を浴びる、山道の所々がオレンジ色に染まり僅か

だが不思議な空間が現れた様だった。

五合目大滝頭の分岐で朝食をとり、薮沢方面のトラバース道に入る、何度か沢を渡

っていくがそのあたりから花の姿も見られるようになり、写真撮りでたびたび止



まらざるを得なくなり？疲れてきたのを紛らわすにはほっとしたりもする。薮沢小屋を過ぎて鹿除けのフェンスが現れるとやがて馬ノ背ヒュッテだ、小休止して出発、前方が徐々に明るく開けていくの分か



黒百合に出会う

る、花の種類も増えてくるのはウレシイ、花の仙丈岳が復活してほしいものだ、灌木も切れ前方が



開けるとガスは多いものの仙丈カールやその稜線がアルペン的な風景を展開して

いる、何度見ても声が出るような山岳風景である。ただ背後の甲斐駒方面はガスに覆われているのは残念だ。

仙丈小屋でしばし雲海の眺めを楽しみ、本峰へ向かう。標高のせいか暑さを感じる



こともなく9時5分3033mの山頂へ、周囲はすでにガスの中に隠されているが大仙丈岳方面の稜線が見渡せる。



ここでのんびり思い思いに手持ちの食糧で昼食？にする。山頂も今日は空いているのは有難い限りである。

下山は先ず小仙丈岳へ向かう、ザレの下りになり左にガスのカールを感じながら小さい岩稜を乗越えて進む、更に小さな登降をして小仙丈岳だ、ピークというより



稜線の一角といった感じだ。



ここからシャクナゲに覆われた下りを過ぎて樹林帯が復活、本格的に下る道になり

高度を下げて行く。

一本前の広河原への戻りバスを捕まえるべく一定ペースで下る。大滝頭で登行路に戻り、すっかり曇り空になった中を下って行く。二合目で駒仙方面への道を分けそのまま峠まで尾根を



トレースして12時34分北沢峠B Sに下山当初予定より2時間以上早いバスに乗れ、早起きの甲斐があったというものである。広河原からワゴンタクシー(乗用車タイプはない)をチャーター、芦安の温泉で汗を流し更に甲府駅前で鶏モツ煮などで反省会もできて充実した？予備山行になったかな。

さあ、これで夏山の本番になります。これまでのトレーニング山行を糧に体調を整え、自信を持って参加して下さい。皆さんと共に素晴らしい夏山を味わえることを期待しています。

(記&写真提供・涌井 良明)

